

平成 23 年 5 月 6 日
外務省緊急対策本部

1. 外国による支援への対応

- (1) 146 ヶ国・地域及び 39 国際機関が支援意図を表明。
援助チームの来訪（来訪ずみのもの計 25 ヶ国・機関）（別紙参照）
※援助チームと現場との調整等のため外務省員をリエゾンとして派遣。
(a) 活動中：人道支援関係：1 ヶ国、1 機関：ヨルダン（医療支援）、WFP
原子力関係：1 ヶ国：米
(b) 活動終了（終了決定含む）：人道支援関係：23 ヶ国・地域及び国際機関（シンガポール、独、スイス、メキシコ、英、米（原子力関係は活動中）、NZ、伊、豪、モンゴル、中、韓、露、仏、インドネシア、南ア、インド、トルコ、イスラエル（医療支援）、台湾、UNDAC、UNOCHA、IAEA）
- (2) 在日米軍による協力
(a) 福島第一原発事故に係る支援：消防車 2 台及びポンプ機 5 基の輸送・提供、防護服・マスクの提供、ホウ素 9t の輸送・提供。淡水を積載したバージ船（はしけ）2 隻の提供。無人偵察機等の画像の提供。
(b) 地震にかかる支援：「トモダチ」作戦の下、空母・強襲揚陸艦等の艦船約 20 隻、ヘリ・給油機等の航空機約 160 機、人員計 20,000 名以上を投入（最大時）し、捜索・救助活動、食料・水・燃料・医薬品等の支援物資の輸送・配布活動等を実施。復旧・復興支援を継続中。
- (3) 豪軍による協力
豪軍の輸送機（C17）が自衛隊と連携し国内輸送を支援（3 月 15 日～25 日）。
福島第 1 原発の冷却に必要な特殊ポンプを豪州から緊急輸送。
- (4) 物資支援
在日米軍が食料・水・医薬品等の支援物資を輸送・提供。各国・地域からの物資支援も順次行われ、5 月 2 日時点で 48 の国・地域・機関からの物資が既に日本に到着し、順次被災地等へ配送されている。日本赤十字社への寄付金送金手続につき情報提供。
(5) NGO 等による協力
62 ヶ国・地域から 1900 以上のお見舞い・支援申し出（NGO：約 150、企業：約 300、個人他：約 1450）。数多くの米国企業から多額の義援金申し出。少なくとも 16 ヶ国・43 団体が来日した模様。外務省として、海外 NGO 等の活動について調整機能を果たすべく窓口を立ち上げた、ジャパン・プラットフォームの取組みを支援。

2. 在日外国人の安否確認

- (1) 外交団等：外交団及び国際機関に対し、関係連絡先、英語の情報提供サイト、原発事故関連情報等を累次周知。外交団等被害は軽微な物損のみ。在京大の自国民保護活動の円滑化の手続き等（チャーター機、車両交通等）につき国交省、警察庁等と調整支援。在京外交団等の機能移転につき情報収集中（5 月 2 日現在 3 公館が一時閉鎖）。
- (2) 在日外国人：各在京大より安否確認依頼情報を聴取し、とりまとめ警察庁と情報共有。今後の身元確認作業のため、3 月 22 日及び 24 日、在京大使館へ説明会を実施。外国人も含めた被災者への支援体制について、4 月 22 日在京大使館へ説明。
- (3) 外務省関連事業：外務省招へい、JICA 事業、国際交流基金事業の中国人高校生・外国人研修生の安否確認終了。JET は東北の 2 名死亡。
- (4) 外務省ホームページに本地震に関するサイト（日本語・英語）立ち上げ済み（外国による支援及び原発関連等の情報も含む）。3 月 15 日より中国語、韓国語でも情報発信を開始。
- (5) 自治体への職員派遣：在日外国人対応のため岩手県及び宮城県に職員計 6 名を派遣（中国語専門家、岩手県 3 月 17-23 日（3 名）、宮城県 3 月 25-31 日（3 名）。（別途、被災地方公

共団体への国家公務員による人的支援として、岩手県宮古市へ職員 4 名を派遣（物資仕分けの支援等）（3 月 28 日～31 日）。更に、同市には 4 月 27 日から 5 月 7 日まで、職員 24 名を 3 グループに分け、順次派遣（主にがれきの撤去等支援）。

- (6) 加、英、仏、伊、スウェーデン、スペイン、ノルウェー、ベルギー、サウジアラビア、ASEAN 諸国（インドネシア、タイ、ベトナム等）、インド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュ、豪、メキシコ、中国、モンゴル、台湾、ロシア、キルギス、カザフスタン、イラン等が安否確認、在日自国民等の保護（含む東北地方からの退避）等を実施。

3. 福島原発事故・原発事故を受けた各国の輸出入等関連措置への対応

- (1) IAEA 及び米国、露、仏、英等との協力
一地震発生後の原子力発電所の状況等について IAEA、米韓中に通報。3 月 18 日に天野 IAEA 事務局長とともに放射線の計測に係る IAEA 専門家チームが訪日。18 日より福島県内を中心に、放射線計測を実施。21 日、IAEA は、ウィーンにて福島原発事故に関する事務局長の訪日報告を議題とする IAEA 特別理事会を開催。26 日、FAO との合同による食品モニタリングに係る専門家チームが訪日し、27 日以降関係自治体等との間で協議。31 日、天野 IAEA 事務局長は、6 月 20 日～24 日にウィーンで原子力安全に関する IAEA 関係会議開催を発表。4 月 1 日、海洋における放射線計測に係る専門家が、また、3 日及び 7 日沸騰水型原子炉（BWR）の専門家が訪日。4 月 4 日から原子力安全条約検討会合のサイドイベントとして IAEA 及び日本政府共催のセミナーを開催。
一3 月 13 日及び 16 日、米国原子力規制委員会の専門家が到着。15 日までに米エネルギー省の専門家が到着。30 日には PNNL（太平洋北西国立研究所）の専門家 2 名が到着。21 日には防護服 1 万着が到着。18 日、ロシアの原子力専門家 2 名が訪日し、外務省・経産省等の関係者らと意見交換。19 日以降、仏より防護服、防護マスク、放射線測定器等原子力関連物資が到着。さらに、4 月 2 日以降、英国より放射線測定器、防護マスク等原子力関連物資が到着。6 日、加より、放射線サーベイメーター及び線量計が到着。9 日、ロシアより個人線量計及びマスクが到着。
- (2) WHO への対応
放射能による健康リスクの関係で関心を有する WHO に対し、寿命代から現状及び政府の取組（下記外交団ブリーフの内容）についての情報を提供中（厚労省は国際保健規則（IHR）に基づき別途 WHO に直接情報提供中）。WHO は、3 月 23 日に在寿命の各国代表部を対象に震災の状況についてブリーフィングを開催。菅首相代大使が我が国の状況につき説明。
- (3) 国際世論への働きかけ
一ハイレベルでの説明：3 月 14 日の G8 外相会合、日露外相会談、3 月 15 日日仏外相会談、3 月 19 日の日中韓外相会談、日中、日韓外相会談、4 月 9 日の日 ASEAN 特別外相会談、5 月 1 日の第 3 回 TICA D 関係級フォローアップ会合、5 月 2 日の核軍縮・不拡散に関する外相会合等で松本大臣から直接説明。3 月 31 日の日仏首脳会談で菅総理から直接説明。4 月 17 日付ワシントン・ポスト紙、16-17 日付インターナショナル・ヘラルド・トリビューン紙に菅総理の寄稿掲載（在外公館を通じ各国主要紙にも働きかけ。28 日 12 時現在、計 32 ヶ国・地域の 58 メディアに掲載）。
一在外公館を通じた働きかけ：原子力発電施設をめぐる現状を更新し、全在外公館に送付（3 月 11 日～4 月 1 日）。関係者に正確な情報を発信し冷静な対応を要請。我が国からの輸入貨物に対する各国・地域の措置について調査、情報収集を行うとともに、各国政府等に対しては我が国のとった措置を始め事実関係の説明や、事実関係に基づく合理的な判断を御願しいたい旨の申し入れを実施。
一在京外交団・外国プレスへの働きかけ：ブリーフをほぼ毎日開催。関連情報を随時在京外国プレス他に向けて発信するとともに、英語版 HP に掲載。特に原発事故を受けた各国の輸出入等関連措置等に関しては、各国の関係当局が科学的かつ合理的な判断に基づいて適切な対応を行うよう、関係省庁の参加の下、ブリーフィングを実施。4 月 12 日には官房長官が外国プレス向けに会見。官邸国際広報室に当省より応援職員 1 名を派遣中。3 月 31 日、在京の外国企業等に対するブリーフを実施（外務・経産が協力しジェトロ本部で開催）。

取扱注意

一関係省庁の副大臣会合を開催(3/31)。各国の輸入検査等の強化の現状とその対応策について協議。各国に対し、日本の措置につき丁寧に説明し、円滑な輸入手続の再開を働きかけていくことを申し合わせた。

一マルチの場を通じた働きかけ：3月29日のWTO貿易交渉委員会(TNC)及び30日のWTO衛生植物検疫措置の適用に関する委員会(SPS委員会)において、小田部在ジュネーブ代表部大使から、我が国のとっている措置について説明するとともに、各国の冷静な対応を呼びかけ。

(4) グリーンピースによる福島沖での海洋の科学的調査

在京オランダ大使館上書とともにグリーンピースからの正式な申請書が4/22外務省に接到。4/27、同調査につき、条件を付して認める旨、在京オランダ大使館に回答済。

(5) 退避者等の受入

JICA施設(二本松市。福島第一原発より50km強)にて原発退避者等190名を受入れ(5月2日午前現在)。JICA本部からも応援要員3名、及び青年海外協力隊員有志4名を派遣。

4. 会談

(1) 電話会談

*実施済み

首脳：日米(3/12, 17 早朝, 30 午前)、日韓(3/13)、日豪(3/13)、日NZ(3/14)、日露(3/14)、
国連事務総長(3/16)、日仏(3/18)、日EU(3/22)、日印(3/23)、日英(3/24)、日独(3/30)、
日EU(4/4)、日中(4/12)

外相：日英(3/11, 12)、日米(3/12, 23)、日豪(3/12)、日NZ(3/13)、日ブラジル(3/17) 日インド
ネシア(3/22)、日南ア(4/18)

(2) 会談

*実施済み

首脳：日IAEA(3/18)、日仏(3/31)、日豪(4/21)

外相：日露(3/14)、日仏(3/15)、日米(3/15, 4/17, 4/29)、日IAEA(3/18)、日中韓・日中・日韓(3/19)、
日独(4/2, 4/30)、日ASEAN・日インドネシア・日タイ・日カンボジア・日フィリピン(4/9)、日アル
ゼンチン(4/11)、日ブラジル(4/16)、日ルクセンブルク(4/19)、日バブアニューギニア(4/26)、
日マケドニア(4/27)、日豪(4/30)、日UAE(4/30)、日英(5/3)

(7)

諸外国・地域・国際機関からの救助チーム・専門家チーム等受入れ日程一覧

平成23年5月6日現在

国・地域名	チーム構成	到着日	到着先	活動地域(往時含む)
★ 韓国	①救助隊2名、スタッフ(機長、救助犬オペレーター等)5名 ②救助隊1名 ③チームリーダー(救助隊に到着した14日目に合流)	①03月12日 ②03月14日	①羽田空港→釜山 ②成田空港→福島空港→盛岡	宮城県仙台市(03月20日撤収)
★ シンガポール	スタッフ 3名 救助犬 2匹	3月12日	成田空港	福島県相馬市(03月15日撤収)
★ ドイツ	レスキュー隊員4名、救助犬2匹 救助犬2匹	3月13日	成田空港	宮城県南三陸町(03月16日撤収)
★ スイス	レスキュー隊員27名 救助犬2匹	3月13日	三沢基地	宮城県大船渡市、釜石市(03月19日撤収)
★ 米国	レスキューチーム 4,141 「フエフエツク」(USAR)チーム 「ロケットマン」(USAR)チーム 「セプター」救助犬を伴う	03月13日(4名)、3月11日(16名) ②米エドワード(ED)基地(3月15日まで) ③PRML(03月30日)	成田空港 成田基地	岩手県大船渡市、釜石市(03月19日撤収)
★ 中国	レスキュー隊員15名	3月13日	羽田	宮城県大船渡市(03月20日撤収)
★ 英国	レスキュー訓練隊 60名、フレスキュー、救助犬2匹	3月13日	三沢基地	岩手県大船渡市、釜石市(03月17日撤収)
★ ニューゼaland	①救助隊7名 ②レスキューチーム(S&R)隊員45名	①03月10日 ②03月14日	①成田 ②成田	宮城県南三陸町(03月19日撤収)
★ 韓国	災害調査専門家7名	3月13-14日	成田	JICA東京(03月20日撤収)
★ 中国	災害調査専門家4名	3月13-14日	成田	JICA東京(03月20日撤収)
★ マネコ	レスキュー員6名、救助犬2匹	3月14日	成田空港	宮城県大船渡市(03月17日撤収)
★ 韓国	①救助隊員15名 ②救助犬2匹	3月14日	成田基地	宮城県南三陸町(03月19日撤収)

諸外国・地域・国際機関からの救助チーム・専門家チーム等受入れ日程一覧

平成23年5月6日現在

国・地域名	チーム構成	到着日	到着先	活動地域(往時含む)
★ フランス	レスキュー員隊員 134名 (セプター11名を含む)	3月14日	羽田 →03月19日18時頃に成田空港	宮城県仙台市、青森県(03月20日撤収) 青森県八戸市(03月20日撤収)
★ 台湾	レスキュー隊員28名	3月14日	羽田	宮城県仙台市、岩手県(03月18日撤収)
★ ロシア	第1陣:22名 第2陣:1360名	第1陣:03月14日 第2陣:03月18日	成田(60名)、成田(25名) 成田	宮城県南三陸町(03月18日撤収) 成田、南三陸町(05日撤収)
★ モンゴル	レスキュー隊員12名	3月15日	成田	宮城県仙台市、岩手県(03月19日撤収)
★ 国際児童救済計画(IFWF)	施設支援員13名(何功次、津原啓太、ニース(備前))	3月15日	成田	東京、岩手
★ 台湾	災害ボランティア6名(津原啓太、原子か安全専門家、大はなゆり)	3月16日	成田	東京都府中(03月21日まで)に全員(10名)
★ 中国	11名(レスキュー)4名(警務員、メチカウ)	3月16日	成田	宮城県仙台市、岩手県(03月20日撤収) 岩手県大船渡市、釜石市、宮城県仙台市(03月23日撤収)、南三陸町に全員(10名)
★ 新アフリカ	救助隊員45名	3月18日	成田	宮城県仙台市、岩手県、青森県、多摩市(03月23日撤収)
★ 米国	★ 成田基地 災害専門家チーム(のべ15名、17名(滞在に行ける被災地支援に専念する))★ AED 回復支援員3名	3月18日	成田	東京都府中(03月21日撤収)
★ AEA	★ 成田基地 災害専門家チーム(13名:IFWO職員1名を含む)	3月20日	成田	東京都府中(03月21日撤収)
★ 米国	救助隊22名	3月19日	成田	東京都府中(03月21日撤収)
★ 米国	災害専門家チーム5名	3月27日	成田	東京都府中(03月21日撤収)
★ 台湾	災害専門家4名	3月28日	成田	東京都府中(03月21日撤収)
★ 米国	災害専門家チーム4名	4月25日	成田	東京都府中

諸外国等からの物資支援・寄付金一覧

2011年5月5日
外務省

大規模な計146の国・地域及び計38の機関が支援要請を受理。(一般的な支援要請、人的支援・物資支援・寄付金等)
大以下のとおり計108の国・地域・機関から物資・寄付金(物資:48、寄付金:77(総額約150億円以上))を寄附。
※本表は、外務省等からの物資支援・寄付金をまとめたもの。(注:民間団体や個人からの支援は含まない)

国・地域・機関	物資支援・寄付金	日本への受入れ日	受入れ場所
米 国	米国防務省から緊急物資(寝袋、簡易ベッド、石油ストーブ、灯油等)、放射線防護服1万着、米軍から食料品約2,800トン並(びに水770万リットル、燃料約4.5万リットルを配布(貨物約3100トンの輸送)、消防車2台、ポンプ5両、核・生物・化学兵器用防護服80セット、ホウ素約8トン、大型放水ポンプ1式、洗水を積載したタンク2隻、米国防務省より放射線検査計31,000枚、イリノイ州より個人検査計2,000個)	随時	各地
寄付金			
国連児童基金(ユニセフ)	水(約5万5,000本)、子供用下着(約27万枚)、靴、おもちゃ、ぬいぐるみ、教育キット、レクリエーションキット、絵本、通学靴(文房具入り)、ランドセル、防犯ブザー、椅子、テーブル、パソコン、コピー、FAX複合機、プリンター等	随時	宮城県 岩手県 福島県
中 国	12人用テント500張、6人用テント400張、毛布2,000枚、手提げ式充電灯200個	3月14日	宮城県
	水(6万本)、使い捨てゴム手袋	3月28日	宮城県 宮城県 宮城県
	仮設トイレ40個、厚手ゴム手袋1万組、スニーカー2.5万足	3月31日	宮城県
	ガソリン1万トン	4月2日	各地
	ディーゼル油1万トン	4月3日	各地
香 港	食料(缶詰約2万個)	4月9日	福島県
	食料(缶詰約1万個)	4月19日	福島県
	靴下(約3万足)	4月20日	宮城県
台 湾	発電機88台、毛布1599張、寝袋2,507張、スリーピングマット238枚、衣類(防寒着等を含む)、4,489着、食品16.5トン並及び4,444着、ストーブ900台、マスク404箱、カイロ150箱、炊具870箱、手袋42箱、履物器具53台、マットレス33箱、防災リュック895箱、マフラー21箱、ナプキン10箱、枕16箱、キルト408箱、ティッシュ20箱、トイレトペーパー30箱、懐中電灯3箱、タオル48箱、靴1袋24箱	3月14日 ~28日	宮城県 福島県 岩手県 新潟県 山梨県
寄付金(※台湾との実務交流窓口は交流協会)			
モンゴル	毛布(約2,500枚)、セーター(約1,000着)等の防寒衣(計約800着・足)	3月14日 ~15日	宮城県
寄付金			
印 度	毛布(28,740枚)	3月16日 ~30日	栃木県他
	水(750ml×約1.2万(約10トン分))	3月23日	宮城県
	ビスケット(約10トン)	3月28日	宮城県
カナダ	毛布(約2.5万枚)、放射線サバイブメーター154台、個人検査計5,005台	3月17日 4月9日	宮城県 山形県 神奈川県 福島県他
寄付金			
タイ	毛布(約2万枚)	3月17日	栃木県 山形県他
	サバイバルキット(500個)、寝袋(1,000セット)、缶詰(約2.8万個)、ラーメン(2.8万食)、懐中電灯(約130個)		岩手県 宮城県(栗及 び石巻市) 福島県 埼玉県 東京都 神奈川県 茨城県
	懐中電灯(約400個)、マスク(約1万枚)、毛布(850枚)		岩手県(栗及 び大船渡市)
	水(1.5L×約8,000本)	3月18日 ~4月26日	岩手県 福島県 東京都 JEN
	防寒具(420箱)、缶詰(17箱)、サバイバルキット500セット、水(500ml×4.5万本)、ラーメン252食		北海道 岩手県 宮城県
	毛布(約14,000枚)、防寒具(約400着)		
	マスク(約2千枚)		
	毛布(約1,700枚)、ラーメン(300箱)、マスク(5万4千枚)、懐中電灯(500本)、コンプレック(108箱)、サバイバルキット(1,500セット)		
寄付金			

国・地域・機関	物資支援・寄付金	日本への受入れ日	受入れ場所
ウクライナ	毛布(2,000枚)	3月17日	栃木県
国際電気通信連合(ITU)	衛星移動通信端末等の貸与(152台)	3月17日 ~22日	岩手県 宮城県
インドネシア	毛布(約10,000枚)	3月18日 ~20日	岩手県 山形県 埼玉県
寄付金			
キルギス	水(ミネラル・ウォーター約2.5トン)	3月18日	宮城県
寄付金			
フランス	毛布(3,000枚)	3月18日	山形県
	毛布(6,870枚)、マスク(97万2千枚)、防護服・防護マスク(約2万着)、放射線測定機(260個)、ポンプ10台、発電機5台、コンプレッサ5台、環境測定車両5台、環境測定被牽引車両(1台)、医薬品5トン、消費用アルコール12トン、食料品10トン、水(0.5L×10万800本)	3月25日	岩手県 宮城県 福島県 茨城県 他
	防護服(1,000着)	4月5日	防衛省
	放射線計測器等の原子力関連物資	4月10日	東電
寄付金			
シンガポール	毛布(4,350枚)、水(0.5L×1万本、1.5L×1万本)、マットレス(200個)、ポリタンク(20L×3,000個)、非常食(4,400食)	3月18日	宮城県
	ポリタンク(500個)	4月21日	宮城県
寄付金			
韓国	毛布(5,000枚)、水(100トン)	3月18日	福島県
	食料(レトルト焼餅(30,000個)、チョコパイ(120,000個)、ラーメン(128,924袋)等)、長靴(4,000足)、ゴム手袋(12,000個)、ペットボトル茶(14,000本)	3月27日	宮城県
	水(480トン)、海苔、レトルトご飯	4月2日	宮城県
	マスク(2万個)、石けん(2万個)、作業用手袋(3,500組)、レトルト炊き込み御飯(2,800食)	4月5日	岩手県
寄付金			
ロシア	毛布(1,72万枚)、水(3.6トン)	3月18日	宮城県
	個人検査計(400個)、マスク(5,000個)	4月9日	岩手県 茨城県 福島県 宮城県 他
寄付金			
コロンビア	水、黒砂糖、食料、調味料、トイレトペーパー等	3月22日	宮城県
ウズベキスタン	テント200点、毛布2,000枚、防寒長靴2,000足	3月23日	福島県 宮城県
イラン	缶詰5万個(ツナ及びビーンゲン豆:各2.5万個)	3月24日 3月31日	宮城県
EU	加盟国等の支援申し入れをとりまとめ(以下の国から物資を受け入れ:オランダ、スウェーデン、スロバキア、デンマーク、ハンガリー、フィンランド、ブルガリア、リトアニア)		茨城県 栃木県 宮城県
寄付金(欧州委員会)			
オランダ	マットレス(1,808台) ※EUを通じた支援	3月24日	茨城県
寄付金			
デンマーク	毛布(23,310枚) ※EUを通じた支援	3月24日 3月26日	茨城県 栃木県
リトアニア	毛布(2,000枚)、寝袋(300点) ※EUを通じた支援	3月24日	茨城県
ベネズエラ	毛布(5トン)、缶詰(1,190箱)、水(約2.8トン)	3月24日	福島県 宮城県
マレーシア	食料品パック(約2,000個)	3月24日	宮城県
国連世界食糧計画(WFP)	栄養強化ビスケット(50万個) 可動式産業45巻、フレハブ41棟 各国等からの支援物資(毛布、食料等)の国内輸送を実施。	3月24日 3月25日	宮城県 岩手県 福島県

国・地域・機関	物資支援・寄付金	日本への 受入れ日	受入れ場所
フィリピン	食料品パック(1,500個)、カップめん(12,000個)、パスタ(1,000袋)、マット(1,000枚)、防護マスク(5,000枚)	3月25日	宮城県 岩手県
	マット(500枚)	4月18日	岩手県
パキスタン	水(1.5L×500本)	3月28日	岩手県
	常温保存可能牛乳パック(8トン)、高カロリービスケット(13.5トン)		宮城県
ネパール	毛布(5,000枚)	3月28日 3月27日	埼玉県
イスラエル	携帯トイレ(150個)、手袋(6,200組)、アクリルフリース毛布(6,000枚)、コート(1万着)	3月27日	福島県
	医療機器	4月10日	宮城県 南三陸町
メキシコ	保存食料(約8.4トン)、衛生物品セット(約3.4トン)、水(約6.8トン)	3月27日	宮城県 茨城県
	使い捨てゴム手袋(3,300セット)	4月21日	福島県 宮城県
	寄付金		
英国	水(約100トン)	3月28日	茨城県
	放射線検量計(666台)	4月2日	東電
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	ソーラーランプ(1,794個)	3月29日	宮城県
	ソーラーランプ(1,800個)	4月18日	宮城県
バングラデシュ	毛布(2,000枚)、ゴム長靴(500足)、ゴム手袋(1,000組)	3月31日	新潟県 宮城県
トルコ	毛布、シーツ(5,000枚)、ツナ缶(約40,000個)、ウズラ豆缶(約20,000個)、水(18.5トン)	4月4日	東京都 福島県 宮城県
ウルグアイ	コンビーフ缶(4,000缶)	4月4日	宮城県
	寄付金		
フィンランド	放射線計測モニター(50台) ※EUを通じた支援	4月5日	茨城県
	水容器(130点)、スチール製水筒(2,800個)、マット(880点) ※EUを通じた支援	4月24日	茨城県
	寄付金		
ハンガリー	食料品(カップラーメン(39,864食)、缶缶(8,840個)、チョコバー(27,000個)、チョコかけアップルチップ(28,800袋)(合計16.7トン分)) ※EUを通じた支援	4月6日	宮城県
スウェーデン	屋外作業用手袋(10,000点)、ゴムブーツ(298足) ※EUを通じた支援	4月8日	宮城県
	毛布(7,125枚)	4月21日	茨城県
スロバキア	衣料品(Tシャツ(1,000点)、ズボン(1,000点)、シャツ(1,000点)、ブルオーバー(1,000点)、靴(1,000足)、寝袋(112点)、テント(14張) ※EUを通じた支援	4月6日	宮城県
	キャンピング用ベッド(112台)	4月21日	茨城県
	寄付金		
グアテマラ	食料(クラッカー、トマトソース等) 15,008キット、栄養ドリンク(15,000個)、水(600ml×10,008本)	4月9日	宮城県 茨城県 徳島県
タンザニア	インスタントコーヒー	在東京が 本邦で購 入	宮城県
	寄付金		
カザフスタン	食料(牛肉の缶詰4万2,500個)	4月12日	宮城県
	食料(牛肉の缶詰4万750個)	4月18日	宮城県
	寄付金		
ポルトガル	子供服1,500着	4月14日	福島県 会津若松市
秦州	食料(クッキー、ビーフジャーキー、レトルトのビーフカレー、缶野菜スープ、ドライ・フルーツ等1,500人分)、ぬいぐるみ(1,500個)	4月23日	宮城県 南三陸町
	寄付金		
ブルガリア	ベッド(168台) ※EUを通じた支援	4月24日	茨城県
	寄付金		

国・地域・機関	物資支援・寄付金	日本への 受入れ日	受入れ場所
スリランカ	紅茶ティーバッグ(300万袋)	4月24日	宮城県 気仙沼市、南 三陸町、石巻
	寄付金		
NZ	寄付金		
バブアニューギニア	寄付金		
トンガ	寄付金		
サモア独立国	寄付金		
ブータン	寄付金		
ラオス	寄付金		
ブルネイ	寄付金		
東ティモール	寄付金		
アイスランド	寄付金		
アンドラ	寄付金		
アイルランド	寄付金		
エストニア	寄付金		
パチカン	寄付金		
ラトビア	寄付金		
ルクセンブルク	寄付金		
オーストリア	寄付金		
スロベニア	寄付金		
クロアチア	寄付金		
セルビア	寄付金		
チェコ	寄付金		
ギリシャ	寄付金		
アゼルバイジャン	寄付金		
グルジア	寄付金		
ブラジル	寄付金		
パラグアイ	寄付金		
アルジェリア	寄付金		
アフガニスタン	寄付金		
オマーン	寄付金		
ガボン	寄付金		
スーダン	寄付金		
赤道ギニア	寄付金		
エリトリア	寄付金		
ナミビア	寄付金		
ボツワナ	寄付金		
マダガスカル	寄付金		
ルワンダ	寄付金		
アルメニア	寄付金		
ミャンマー	寄付金		
カンボジア	寄付金		
ベトナム	寄付金		
タジキスタン	寄付金		
モンテネグロ	寄付金		
モルドバ	寄付金		
ベラルーシ	寄付金		

国・地域・ 機関	物資支援・寄付金	日本への 買入れ日	買入れ場所
アルバニア	寄付金		
ボスニア・ ヘルツェゴビナ	寄付金		
ジャマイカ	寄付金		
ニジェール	寄付金		
ガイアナ	寄付金		
セネガル	寄付金		
マリ	寄付金		
コンゴ共和国	寄付金		
ケニア	寄付金		
マケドニア	寄付金		
カタール	寄付金		

※諸外国等からの物資支援の希望については、被災者生活支援特別対策本部事務局等における被災地のニーズとの調整を踏まえ、買入れ作業を順次進めている。